

## 術後の下眼瞼縁外反・下垂過大に対して早期に行える 簡便で有効な修正法

### 木村 知史

Tomofumi Kimura

ヤスミクリニック(美容外科)

術後の下眼瞼縁外反に対する治療法は、切開・剥離して眼輪筋を外側に牽引し目尻側の骨膜に固定、もしくは瞼板軟骨を外側に引き同様に固定などが行われている。

いずれも再手術なので、術後早期に行えず待機期間として3ヶ月以上経っての手術となるケースが多い。しかし社会復帰上、早々に治療を希望する患者は多い。当施設ではメスで切開など行わず、早期に拘縮もしくは皮膚の足りない部分を伸ばした上で外側に牽引し目尻側に固定する治療法を行っている。

また近年の下眼瞼下垂手術(タレ目形成、グラマラスライン形成)では、患者は術前の希望と異なり、術後に少し戻して自然な感じにしたいなどということも時折ある。

そのような場合も早期にメスを使わない修正治療を行っている。

いずれも有効な結果を出しており、これらについて症例供覧・報告を行う。